



## 食鳥処理場への鶏の計画的な出荷について

標記の件については、日鶏協ニュース 2018年3・4月合併号にて協力を依頼したところですが、今般、農林水産省生産局畜産部食肉鶏卵課課長補佐及び畜産振興課課長補佐連名による「食鳥処理場への鶏の計画的な出荷について」にて連絡があり、下記の地方農政局等畜産課長あて事務連絡を発出し、管内の都道府県に対して食鳥処理場への鶏の計画的な出荷について養鶏業者等関係者への周知を依頼した旨のお知らせと併せ、本会会員への周知依頼がありました。

つきましては、鶏の食鳥処理場への出荷に際し、食鳥処理業者との調整等により輸送の過密化や食鳥処理場での保管の長時間化を避けられるよう今一度ご留意いただけますようお願いいたします。

なお、本件に関しては厚生労働省及び環境省からも都道府県関係部局宛てに関係者への周知依頼がなされております。

写

平成30年11月15日

北海道農政事務所長  
地方農政局生産部長  
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長 } 殿

農林水産省生産局畜産部  
食肉鶏卵課課長補佐  
畜産振興課課長補佐

### 食鳥処理場への鶏の計画的な出荷について

標記の件につき、平成30年3月26日付け29生畜第1114号において、周知依頼をしたところですが、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課から、成鶏処理場への調査において、一部の食鳥処理業者において養鶏業者に計画的な出荷を求めることが困難である状況が判明したとの連絡がありました。

調査結果の詳細については確認中ですが、引き続き、貴管内の都道府県に対し食鳥処理場への出荷に当たっては、養鶏業者と食鳥処理業者が調整の上、関係法令等に留意しつつ、計画的に出荷すべき旨、養鶏業者等関係者に対して周知をお願いします。



なお、本調査結果については、調査に参加した都道府県等の衛生主管部局に対しては厚生労働省より、また、都道府県等の動物愛護管理主管部局に対しては環境省より、通知等されているので申し添えます。

## 鳥インフルエンザ経営再建保険募集のご案内

鳥インフルエンザ経営再建保険は、**(一社) 日本養鶏協会会員の方を対象**として、鳥インフルエンザ (A I) が万一発生した場合に、**国の補償、本協会の家畜防疫互助基金支援事業の補償に加えて経営再建を支援する制度**として発足したものです。

今年度は、既に**野鳥から低病原性鳥インフルエンザウイルスが確認**されております。また、近隣の中国や台湾などでは家きんでのA Iが確認され、韓国においても野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されていることを踏まえれば、我が国の家きん飼養農場への本病ウイルスの侵入リスクが高まっていると考えられます。

今回、平成31年の鳥インフルエンザ経営再建保険については、会員の皆様方の要望にお応えして、年間保険料の引き下げや支払限度額の拡大など補償内容を改定しましたので、この機会に鳥インフルエンザ経営再建保険への加入をご検討いただきますようお願いいたします。

会員の皆様には、12月の上旬に加入のご案内を送付いたしますが、この保険の主要な点は下記となります。

1. 申 込 期 限      31年1月11日 (金)
2. 保険料納付期限      31年1月18日 (金)
3. 保 險 期 間      31年2月1日～32年1月31日までの1年間
4. 加 入 対 象 者      一般社団法人 日本養鶏協会の会員で採卵養鶏を業とする者に限る (本制度に加入を希望する方は、日本養鶏協会に会員登録すれば加入資格が得られます。本年度に当協会へ新規加入される生産者については、平成30年度より会費の負担 (年会費の半額) をお願いします。)
5. 補 償 総 額      10億円 (前年5億円)



## 6. 補償限度額及び保険料

	1羽あたり補償限度額	1羽あたり保険料
成 鶏	430円	2.2円 (前年2.4円)
育成鶏	180円	1.1円 (前年1.2円)

7. 補 償 特 約      鳥インフルエンザ発生により加入者が廃業した場合でも3  
百万円を限度として補償が受けられる (廃業費用特約)
8. 損 金 算 入      保険料は当該支払年度に損金算入することができます。
9. 無 事 故 戻 し      5%無事故戻し
10. 協会内連絡窓口      永井、小田上 (電話：03-3297-5515)

## 日本成鶏処理流通協議会「全国協議会」開催概要

日本成鶏処理流通協議会 (会長 松尾邦光 印南養鶏農業協同組合代表理事組合長) は、平成30年11月8日に愛知県豊橋市の「ホテルアソシア豊橋」において、アニマルウェルフェア (AW) やHACCPなど同協議会が抱える課題に関する知識の向上を図るため、当協会との共催で「全国協議会」を開催し、一般参加者、協議会会員など50名の参加がありました。

全国協議会では、東西産業貿易 (株) の奥平商品開発部長から「アニマルウェルフェアに関ししての世界の動静」と題し、欧米におけるアニマルウェルフェアへの対応状況や我が国における今後の対応等について講演の後、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課の横田栄一課長補佐より「HACCPに沿った衛生管理の制度化」、農林水産省消費・安全局動物衛生課の川田良治課長補佐より「我が国における鳥インフルエンザ防疫体制について」、農林水産省生産局畜産部食肉鶏卵課の伊藤寿課長補佐より「農業競争力強化支援法について」の講演があり、大盛況なうちに閉会しました。

なお、翌9日は日本成鶏処理流通協議会の例会が開催され、各専門委員会から活動状況などの報告がありました。





## 鶏卵の輸出について（韓国）

農林水産省は、厚生労働省と連携し、韓国当局との間で、食用生鮮家きん卵の輸出解禁のための協議を進めてきました。今般、当局間の協議が終了し、我が国から韓国への食用生鮮家きん卵の輸出が認められることとなりました。

また、農林水産省及び厚生労働省は、韓国の求める輸出条件等を定めた「対韓国輸出殻付き家きん卵の取扱要綱（平成30年11月27日付30消安第1208号、生食発1127第1号）」を定め、自治体に通知したところです。

このため、平成30年11月27日より、動物検疫所において輸出に必要な輸出証明書の発行が開始しました。

### <主な輸出条件>

- ・日本で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生がないこと。
- ・生産農場で、輸出前60日間ニューカッスル病の発生がないこと。
- ・農林水産省に登録された農場で生産された卵であること。
- ・輸出卵はサルモネラ・エンテリティディス陰性であること。
- ・厚生労働省を通じ、韓国当局により登録された卵選別包装施設（HACCPの実施等）で処理された卵であること。

### <これまでの経緯>

2016年5月 「農林水産業の輸出力強化戦略」において韓国向け卵が重点品目に指定

2016年11月～2017年3月 日本においてHPAI発生

2018年1月 日本においてHPAI発生

2018年5月 日本においてHPAI清浄化。韓国は日本を食用卵の輸入可能地域に指定

2018年11月 輸出条件（輸出証明書様式）の合意

### <動物検疫所ホームページ>

<http://www.maff.go.jp/aqs/hou/exkakin3.html>

### <厚生労働省ホームページ>

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/haccp/other/tA1hongkong/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/haccp/other/tA1hongkong/index.html)



## たまごの不適切な表示について

鶏卵公正取引協議会では、生食用として販売される殻付鶏卵の表示の適正化を図るため、「鶏卵の表示に関する公正競争規約施行規則」に基づき市中で販売されているパック卵のラベル表示を調査し、不適切な表示については改善をお願いしてきたところです。

●●●たまご  
抗生物質・抗菌剤・  
ホルモン剤等を  
一切与えていません。

左のような、たまごの表示を道の駅やたまご直売所などでご覧になった事はないでしょうか？

我が国では、飼料安全法に基づき、10週齢以降の採卵鶏には抗生物質、抗菌剤は与えることができません。

また国内では採卵鶏で認可されているホルモン剤はありません。

これらの表示は、「鶏卵の表示に関する公正競争規約施行規則」において、通常使用することが認められていない抗生物質やホルモン剤等、これらを使用していないことを強調する表示は、消費者に誤認を与える事から不当表示に該当し表示する事を禁じております。

会員の皆様におかれましては、販売する卵のラベルや売り場のPOPについて再確認していただくとともに、適正な表示にご協力していただきますようお願い申し上げます。

## 協会活動報告

[青字下線部クリックで、\(一社\)日本養鶏協会ホームページ内  
該当事業のページが開きます](#)

### (1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

#### ① 価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (トン/月当たり)

平成27年度	161,936
平成28年度	164,846
平成29年度	162,353
平成30年度	169,171

#### ② 11月の標準取引価格 193.84 円/Kg

平成30年度補填基準価格 185 円/Kg

平成30年度安定基準価格 163 円/Kg



## (2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業



### ① おもてなしにもピッタリな簡単たまご料理レッスン

**11月5日の「いいたまごの日」**にちなみ、11月2日に東京銀座の東京ガススタジオプラスジーゲンザにおいて、本協会と（一社）日本卵業協会共催の「いいたまごの日」コラボイベントを開催しました。

イベントの開催にあたり、本会齋藤会長から日本の鶏卵消費量は世界トップクラスであること、今年は国際鶏卵委員会 I E C 京都大会が初めて日本で開催され、「たまごニコニコ運動」が表彰されたことなどを紹介し、「皆さんの卵を使った作品を楽しみにしている。」と挨拶。午前は日本卵業協会の青年部組織「ヤングミーティング」が中心となって、「第4回たまごニコニコ料理甲子園」の決勝大会、午後は本協会がマイナビウーマンのウェブサイトを通じて応募いただいた17名の女性を招いて、「おもてなしにもピッタリな簡単たまご料理レッスン」を催しました。

管理栄養士・料理研究家の牧野直子先生が、栄養たっぷりの「ビーンズスパニッシュオムレツ」と、付け合わせの「秋野菜のグリル」を失敗なしの調理テクを交えて実演後、いざ調理スタート！時折歓声や拍手を上げながら参加者の皆さんは終始イベントを楽しんでいました。

牧野先生からは、「たまごは生でも食べられるし、使い勝手抜群の食材ですが、実はビタミンC 食物繊維以外の主な栄養素を含む、最も完全に近い栄養食品。美肌の土台を作ってくれるたんぱく質が多く含まれるほか、口内炎や吹き出物の予防・改善や、脂質の代謝を良くしてダイエットに効くビタミンB2もたっぷり。脳卒中や認知症のリスクを軽減する効果があることがわかったことで最近注目を浴びている葉酸のほか、造血ビタミンのひとつと呼ばれるビタミンB12、女性に不足しがちな鉄や亜鉛などのミネラルも豊富です。1日2個のたまごは、女子力アップに最適です」とのお話がありました。

アンケートでは「ホームパーティで作りたい」、「毎日1個欠かさずたまごを食べていたが、栄養満点だと知り美容と健康のために『1日2個食べたい!』」と高い評価をいただき、「たまごの日」のイベントは大盛況で幕を閉じました。





## ② 親子オムライス教室 in 長崎

今年で3年目を迎える「親子オムライス教室」イベントが、本協会と長崎県養鶏協会の共催で11月10日(土)長崎県諫早市「小野ふれあい会館」にて開催されました。

このイベントは本協会「国産鶏卵に関する普及啓発事業」の催事で、子供たちの大好きなオムライスを取り上げ、「早く、美味しく、簡単に!!」をテーマに、たまごソムリエの友加里さんの指導のもと、5組の親子にご参加いただきました。

「意外と簡単!」、「ケチャップアートできたよ♪」、「作るの楽しい♪」という子供たち。試食では、「自分で作ったオムライスは特別美味しいっ!」と満面の笑みを浮かべている親子の姿が印象的でした。

友加里さんより、「皆さんは1日何個たまごを食べていますか?私は6個食べています」の発言に一同ビックリでしたが、「たまごをたくさん食べるようになってから、すごく健康になりました。たまごは、完全栄養食品と言われているので、沢山食べて元気なカラダをつくりましょう!!」とお話がありました。





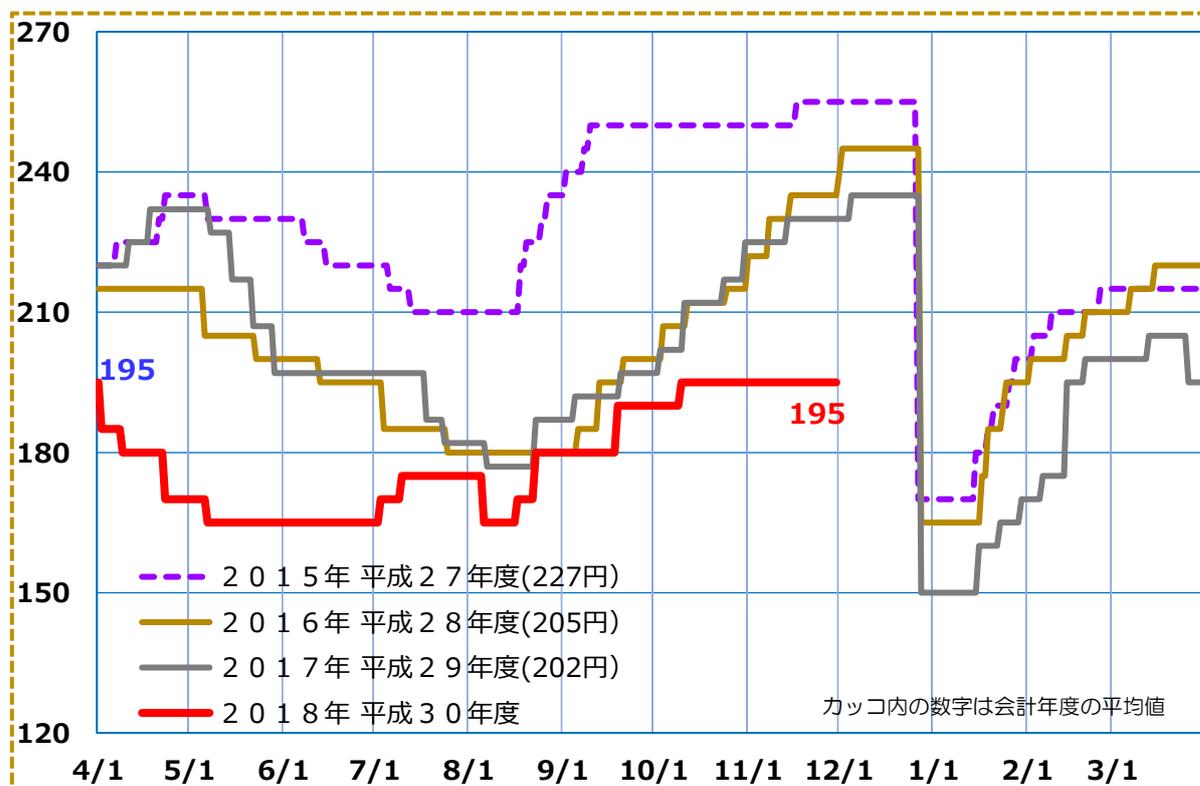
## 統計データ

### 【相場動向】過去10年間の11月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成21年	188	223	174
平成22年	206	253	189
平成23年	194	213	184
平成24年	209	248	187
平成25年	260	298	219
平成26年	242	263	234
平成27年	252	273	244
平成28年	231	253	216
平成29年	228	248	219
平成30年	195	213	189
平均値	221	249	206

平成30年11月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は、平均値は195円、高値213円、安値189円で、平均値及び安値は7年ぶりに200円を下回りました。

### 【鶏卵相場推移 2015年～2018年 会計年度 東京全農Mサイズ 円/Kg】



11月の鶏卵相場は、10月10日以降、横ばいの195円で推移しており、この時期、過去4年で最も安値だった29年の230円と比べ35円安い相場となっています。



## 【鶏卵関係主要計数】平成30年9月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	前年	本年
29年10月	9,225	100.9%	487	104.2%	910	100.2%	211	211
11月	9,519	107.7%	494	102.9%	899	102.8%	231	228
12月	9,081	98.6%	536	102.1%	936	103.0%	245	234
30年1月	9,387	101.2%	477	103.9%	889	104.6%	179	159
2月	9,034	109.1%	461	102.7%	862	102.2%	204	189
3月	9,940	102.0%	522	101.7%	896	102.3%	217	201
4月	9,503	104.3%	477	101.8%	885	97.6%	227	179
5月	10,035	111.1%	503	101.2%	965	108.4%	216	165
6月	9,267	95.0%	482	101.6%	908	107.7%	197	165
7月	9,947	111.9%	446	98.0%	844	97.4%	191	173
8月	8,723	104.6%	488	99.9%	853	100.5%	182	172
9月	8,897	98.7%	451	97.2%	882	102.8%	194	184
1年間合計 平均(%)	112,558	103.8%	5,824	101.4%	10,729	102.5%	208 (平均)	188 (平均)

注:雛餌付羽数は全国推定値

- ・雛餌付羽数は、8,897千羽（前年比98.7%）となり3ヵ月ぶりに前年を下回りましたが、年間では前年比3.8%上回って推移しています。
- ・配合飼料出荷量は、3ヵ月連続で前年を下回りましたが、年間では前年比を1.4%上回って推移しています。
- ・鶏卵の家計消費量は、882グラム（前年比102.8%）と2ヵ月連続して前年を上回り、年間でも前年比2.5%増と堅調に推移しています。
- ・今後、生産に適した気候となるとともに、成鶏更新・空舎延長事業参加者の産卵復帰が進むに伴って、供給量は増加基調で推移すると考えられます。  
また、家計消費も最需要期を迎えることから堅調に推移すると思われます。

### 年末年始休業のお知らせ（12月29日～1月3日）

当協会では、平成30年12月29日（土）～平成31年1月3日（木）まで年末年始休業とさせていただきます。休業中の各種お問い合わせにつきましては1月4日（金）以降の対応となりますので、あらかじめご了承ください。  
なお、日鶏協ニュース1月号の発行は1月7日（月）となります。



## 浅木常勤理事就任

平成30年12月1日(土)に、平成30年度臨時総会が馬事畜産会館において開催されました。

臨時総会では、齋藤会長の挨拶の後、議事に入り、平成30年4月1日以降、不在であった常勤理事について協議がなされ、浅木仁志氏が常勤理事に選任されました。

なお、常勤理事の選定に当たっては、平成30年11月2日～8日常勤理事候補者の公募を実施し、正副会長会議(開催日:11月12日)において厳正な選考を行った結果、応募者浅木仁志氏が常勤理事候補者として適切であるとして理事会に推薦されました。理事会は、平成30年11月19日浅木仁志氏を総会で決議すべき常勤理事候補者として選定し、今回の臨時総会において常勤理事に選任されました。

## 年末のご挨拶

今年も、「日鶏協ニュース」をご愛読いただきありがとうございました。

来年も会員の皆様方に役立つ情報を提供できるよう紙面の充実と迅速な情報提供に努めて参りたいと考えておりますので、引き続きご支援・ご愛読いただきますようお願いいたします。

これから年末年始を迎え、人の動きが一層激しくなります。会員の皆様には、引き続き鳥インフルエンザの厳重な警戒をするとともに、更なる予防対策の強化・徹底をお願いします。異状を見つけた場合には、直ちに最寄りの家畜保健衛生所に連絡をお願いします。



【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

TEL: (03) 3297-5515 FAX: (03) 3297-5519 発行日 2018年12月3日

編集・発行責任者: 小田上浩史(info@jpa.or.jp)

